

## トピック まなづるの海

### 台風続き・・・海も荒れた10月

10月は強い台風と低気圧が次々とやってきて、各地に広く甚大な被害をもたらしました。海も荒れた日が続く、漁業では定置網が大波で破損したり、漁に出ることができないなど、真鶴のみならず、相模湾全体でも水揚げがほとんどないという日が続きました。



台風19号接近の岩海岸(上) <写真提供：(有)ロッキーマリン>  
台風後、岩海岸に流れ着いた漂着ごみ、(左)



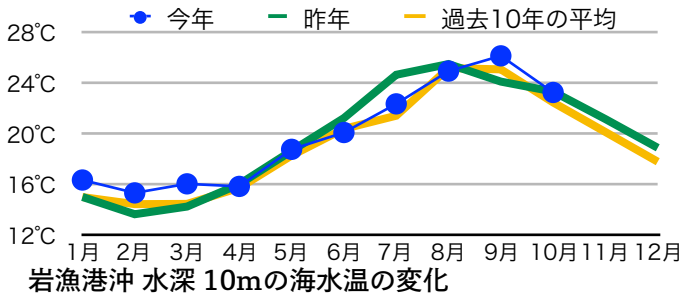
台風が過ぎ去った後の海岸には、たくさんの漂着物が打ち上げられました。海藻など海から来たものもありますが、大部分は木や草などの植物で、大雨で増水した河川によって大量に運ばれてきたものです。それに混じってペットボトルをはじめとしたプラスチックゴミが目立ち、世界中の海で問題となっているマイクロプラスチック(砕けて1mm以下になったもの)も多くありました。漁協のみなさんや役場職員が掃除をしてくれたおかげで今はきれいな海岸に戻っていますが、漂着するゴミは、海に流れ出した量のほんの一部に過ぎません。海に流れ出したプラスチックは、大海原を漂い、世界中の各地の海に「ゴミベルト」と呼ばれる、ゴミが海面を覆い尽くしてたまっている海域を作り上げてしまっています。これらが細くなったマイクロプラスチックは生態系への影響が危惧されています。マイクロプラスチックを回収する方法も研究されていますが、今のところ有用な方法は見つかっていません。一番の対策は、シンプルですが、ゴミが用水路や川へ流されないようにすること。水路や河川は海につながっています。ビニールやプラスチックが屋外で落ちたり飛ばされたりしないよう心がけましょう。

## 真鶴の海況

### 大雨の影響、海の中でも。

海水温が下がり始める季節になり、今月は23.3℃とピークだった9月と比べるとガクッと3℃近く下がりました。水温の変化は例年よりもやや急でしたが、同時に測定された海水中の塩分も通常より低かったことから、台風の大雨で、河川の冷たい水が大量に海に流れ込んだことも影響していると考えられます。

これから年明けにかけて、だんだんと海の中にも冬が訪れます。  
<データ提供：横浜国立大学>



## 真鶴の漁獲情報

### 秋の魚市場、豊富な魚種が勢ぞろい

漁協では、台風対策のため定置網を海から上げていたので、水揚げはしばらくお休みとなっていました。台風が過ぎた後も海が荒れた日が続く、網を海に入れられず、漁ができない日が続いていました。ようやく再開された10月後半からは、カンパチ、イナダ、チダイにコウイカ、メジマグロなど、さまざまな魚種が揚がり、魚市場は相模湾の多様な魚で連日賑わっているようです。今年もようやく例年並みの水揚げになり、漁協の職員さんもほっと一安心されている様子でした。

相模湾では、秋は、春～夏に比べて、水揚げされる魚の種類も量も多くなる季節です。店頭でもさまざまな種類の地魚が並ぶようになります。地元の魚を味わうのも楽しい季節です。

目移りしてしまうほどの魚種の中から今回ご紹介する魚は、オキアジ。よく目にするマアジとは程遠い体型ですが、硬い「ぜいご」があり、アジのなかまだとわかります。マアジに比べると沖合いで獲れることから「オキアジ」というそうですが、真鶴漁協の直売所では「モクアジ」という名前で並んでいました。真鶴や小田原の一部での地域限定の呼び方です。

モクアジはなかなか水揚げがない貴重な魚で、大変味が良い高級魚だそうです。お刺身で美味しくいただきました。

<情報提供：真鶴町漁協>



オキアジ (真鶴では「モクアジ」)

## 2019年11月の町立遠藤貝類博物館のイベント

- 27日(水)まで 町立遠藤貝類博物館 特別展「貝×食」  
23(土)学芸員による展示解説  
町立遠藤貝類博物館【予約不要、要入館料】
  - 9日(土) 真鶴の海の生物展示コーナー in 真鶴豊漁豊作祭  
真鶴港岸壁広場【自由入場】
  - 13日(水) 貝博サポーターズ主催講演会  
「ウニはすごい バッタもすごい われわれもすごい」  
講師：本川 達雄氏 (東京工業大学名誉教授)  
町立遠藤貝類博物館【予約不要、要入館料】
- ※各イベントの詳細は、町立遠藤貝類博物館ホームページをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HPからダウンロード  
ができます。プリントしていただいての掲示・配布歓迎です。